

県民芸術劇場 君津公演

千葉交響楽団 演奏会

指揮

山下一史

ピアノ

米津真浩

管弦楽

千葉交響楽団

2018年 11月11日〈日〉

君津市民文化ホール

大ホール

開場13:15／開演14:00

主催：千葉県／(公財)君津市文化振興財団／虹の音楽会

PROGRAM

プレトーク

指揮 山下一史氏による解説

ラフマニノフ

Sergei Vasil'evich Rakhmaninov

ヴォカリーズ 作品 34-14

Vocalise, Op.34 No.14.

ラフマニノフ

Sergei Vasil'evich Rakhmaninov

ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品 18

Concerto for piano and orchestra No.2 c-moll Op.18

第1楽章 モデラート
Moderato

第2楽章 アダージョ・ソステヌート
Adagio sostenuto

第3楽章 アレグロ・スケルツァンド
Allegro scherzando

休 憩

リムスキー＝コルサコフ

Nikolai Andreyevich Rimsky-Korsakov

交響組曲「シェエラザード」 作品 35

Scheherazade Op.35

第1曲 海とシンドバッドの船
Largo e maestoso—Allegro non troppo

第2曲 カランダール王子の物語
Lento—Andantino—Allegro molto—Con moto

第3曲 若い王子と王女
Andantino quasi allegretto—Pochissimo più mosso—Come prima—Pochissimo più animato

第4曲 バグダッドの祭り —海— 船は青銅の騎士を載く岩で難破 終曲
Allegro molto—Vivo—Allegro non troppo maestoso

ラフマニノフ ヴォカリーズ 作品 34-14

ヴォカリーズとは、声楽の発声練習にしばしば使われている母音だけによる唱法のことです。古くはグレゴリオ聖歌や、中世〜ルネサンスの多声音楽などにもこの唱法を用いた曲が多くみられました。近代ロシアの作曲家、セルゲイ・ラフマニノフ（1873-1943）のこの名曲は、彼が 1912 年に書いた 14 曲からなる歌曲集作品 34 の最終曲で、言葉の歌詞を持たず母音のみによって憂愁にみちた息の長い旋律が表情ゆたかに歌われます。これは近代の作曲家によるもっとも有名なヴォカリーズの作例といえるでしょう。さまざまな楽器に編曲されて広く愛好されていますが、本日演奏されるオーケストラ版は、ラフマニノフ自身が 1929 年に編曲したものです。

ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第 2 番 ハ短調 作品 18

主として 20 世紀に創作活動を展開しながら、調性音楽の枠組みの中で甘美な抒情性と器楽の名技性を追求したラフマニノフは、19 世紀ロマン主義の残照を燦燦と浴びた最後の大物作曲家でした。存命中には、大きくて柔軟な手と並外れたテクニックを持つ巨匠ピアニストとしても知られました。例えば、彼は右手の親指を除く 4 指でピアノの「ドミソド」を難なく弾き、さらに驚くべきことに、その 4 指を鍵盤から離すことなく、親指をその下からくぐらせて、上の「ミ」を弾けた、といわれています。

ロシア西部ノボゴロドの地主貴族の家に生まれた彼は 9 歳でペテルブルクに移りペテルブルク音楽院に入学しますが、旧弊な音楽院の体質が肌に合わず、今で言う不登校児の走りとなってスケートにうつつを抜かしていたため、落第宣告を受けてしまいます。しかし、モスクワ音楽院に転校してからは、ここの校風が肌にあったとみえて本来の楽才を発揮し、卒業後、新進作曲家、ピアニストとして名声を高めていきました。ところが、1897 年、ロシア音楽界の重鎮グラズノフ（1865-1936）の指揮によってペテルブルクで初演された交響曲第 1 番が酷評を浴びたことから深刻なスランプに陥ります。幸い、名精神科医ダール博士の暗示療法を受けて回復し、作曲家としての自信を取り戻すことができました。その記念碑的復帰作となったのが、1900 年から翌年にかけて作曲されたこのピアノ協奏曲第 2 番でした。初演は 1901 年 10 月 27 日に彼自身のピアノ独奏によっておこなわれ、圧倒的な成功を収めました。彼はこの作品を含めて生涯に 4 曲のピアノ協奏曲を書きましたが、演奏効果が抜群でロシア的なロマンと哀愁にみちたこの第 2 番はその中でもっとも広く親しまれ、古今の名ピアノ協奏曲のひとつとして世界中で愛好されています。

第 1 楽章：モデラート、ハ短調、2/2 拍子、自由なソナタ形式。ロシアの教会の鐘を思わせるピアノの重厚な和音が次第に強く鳴らされ、分散和音に変化して 2 度駆け巡ったところでオーケストラがほの暗く力強い主題を開始します。ヴィオラに導かれてピアノに出る第 2 主題は甘く感傷的な美しい楽想です。

第 2 楽章：アダージョ・ソステヌート、ホ長調、4/4 拍子、序奏付きの複合 3 部形式。冒頭は弱音器をつけた弦と木管による序奏。次いでピアノの分散和音にのってフルートが詩情ゆたかな主題を歌いだし、これがクラリネットからピアノへと渡されます。中間部はピアノの独壇場となって、ロシア的センチメンタリズムにみちた旋律が連綿と歌われます。

第 3 楽章：アレグロ・スケルツァンド、ハ短調〜ハ長調、2/2 拍子、ロンド形式。力強い第 1 主題と物憂げな第 2 主題の鮮やかな対比によって進められます。第 2 主題の甘く切ない旋律は、マリリン・モンロー主演のアメリカ映画『7年目の浮気』やイギリス映画『逢い引き』に使われて、このピアノ協奏曲を一躍有名にしました。

リムスキー＝コルサコフ 交響組曲「シェエラザード」作品 35

19 世紀後半は、それまで音楽文化の中心地であった中央ヨーロッパ以外の諸国に自国の伝統音楽の長所を見直してそれをクラシック音楽の手法の中に取り込もうとする国民楽派の動きが巻き起こった時代です。ロシアにはその担い手として「5 人組」と呼ばれる作曲家たちが出現しました。その最年少メンバー、ニコライ・リムスキー＝コルサコフ（1844-1908）は軍人貴族の息子として生まれ、恵まれた環境に育ちました。青年期に達すると一族の慣例に従って海軍兵学校に入学して士官教育を受け、その傍ら、ミリー・バラキレフの指導を受けて作品を書き始めました。また、モデスト・ムソルグスキーやセザール・キュイらとの親交を通じて音楽に傾倒していきました。卒業後は海軍士官として遠洋航海に出たため、作曲は一時中断されましたが、この航海途上に体験した世界各国の珍しい事物の印象は、のちの作品に色濃く反映されることとなります。

やがて、遠洋航海から戻った彼は海軍勤務の一方、再び作曲のペンを執り始めました。すると 1871 年の夏、突然、ペテルブルク音楽院から作曲法と管弦楽法の教授に就任を要請されたのです。彼は正規の音楽教育を受けていない自身の経歴を思っておおいに逡巡しましたが、是非にと請われて最終的にこれを引き受け、あらためて和声学や対位法を徹底的に学びなおしました。こうして彼はついに管弦楽法の大家といわれるまでになったのです。当初は海軍勤務と音楽院教授の 2 足の草鞋を履いた彼も、2 年後には海軍を辞し、音楽家生活 1 本に絞ります。その後、クラスノクツキーというヴァイオリニストと知り合ったことをきっかけに、1887～88 年にいずれも独奏ヴァイオリンの活躍する《ロシアの主題による協奏的幻想曲》、《スペイン奇想曲》、交響組曲《シェエラザード》、序曲《ロシアの復活祭》という 4 曲の重要なオーケストラ作品を書きました。その中でもっとも優れ、また演奏機会も多いのが、色彩的な響きにみちたこの《シェエラザード》です。

タイトルのシェエラザードとは、ササン朝ペルシャ時代（3～7 世紀）に成立した千夜一夜物語（アラビアン・ナイト）の語り手を務める美しい才女の名で、物語は彼女がシャリアール王という王様に、毎晩一話ずつお話を聞かせるというスタイルで書かれています。

シャリアール王は名君として敬われていましたが、あるとき、妃の不貞を目撃して妃と相手の黒人奴隷を処刑してからというものすっかり女性不信に陥り、毎晩、若い清純な乙女と一夜をともにしては翌朝その首をはねるようになります。その蛮行を何とかしてやめさせようと、大臣の娘シェエラザードはみずから進んで王の寝所へ出向き、さまざまな珍しい話を王に語って聞かせます。王は次の物語を聞きたいばかりに彼女の首をはねることができず、シェエラザードは毎夜物語を語り続けることとなります。彼女の物語が千と一夜に達したとき、王はついにこれまでの非を悔い、シェエラザードを正式な妃に迎えます。シェエラザードの毎夜語るさまざまな話に登場するのが、船乗りシンドバッドや、魔法のランプで知られるアラジンといったキャラクターです。エキゾチックで処世訓にも富んださまざまな物語は、古来多くの読者を魅了してきました。

リムスキー＝コルサコフのこの交響組曲もこれに材をとったもので、1888 年 8 月 7 日に完成、同年中に初演されました。初版の楽譜には、シャリアール王とシェエラザードの物語が掲載されていました。4 つの楽章にもそれぞれ標題がつけられていますが、物語の進行をそのまま音楽化したというわけではなく、雰囲気表現にとどめられています。リムスキー＝コルサコフ自身、標題が聴き手のイメージを縛ることを恐れ、これらを廃することも考えましたが、最終的に標題は残されました。4 つの楽章に共通して登場するのは、コンサート・マスターの独奏ヴァイオリンによる甘美なシェエラザードの主題で、いきりたつ王を、優しくなだめるかのようです。

第 1 曲〈海とシンドバッドの船〉

威圧的なシャリアール王の主題が示されたのち、独奏ヴァイオリンに甘美なシェエラザードの主題がハーブを伴って現れます。そのあと、シンドバッドの航海のようすが描かれますが、その間もシェエラザードの主題は形を変えて何回も姿を見せます。

第 2 曲〈カランダール王子の物語〉

シェエラザードの主題で始まり、次いでファゴットから哀感のあるカランダール王子の主題が示されます。カランダール王子は 16 歳のとき修行僧となって諸国を遍歴し、苛酷な労働をみずからに課して、そのわずかな給金を貧しい人々に施して早世したという慈悲深い王子です。中間部では激しい曲想となって管打楽器が活躍します。

第 3 曲〈若い王子と王女〉

弦を中心として憂愁を帯びた美しい旋律が歌われます。中間部では小太鼓も加わって軽やかな舞曲風の音楽となり、若い王子と王女の楽しげに踊る場面が暗示されます。

第 4 曲〈バクダットの祭り—海—船は青銅の騎士を戴く岩で難破—終曲〉

力強い王の主題とやさしいシェエラザードの主題から始まります。祭りの賑わい、船を襲う荒波、難破する船のありさまが劇的に描かれ、やがて再び海が静まってから柔和なシェエラザードの主題が現れ、最後は余韻を残しつつ静かに全曲を閉じます。



©ai.ueda

山下一史

Kazufumi YAMASHITA 指揮

桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年12月よりカラヤンの亡くなるまでアシスタントを務める。その後、ヘルシンボリ響（スウェーデン）首席客演指揮者、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者などを歴任、2008年4月同団名誉指揮者就任。2006年仙台フィル指揮者、2009年4月から2012年3月まで同団正指揮者。2011年にはシューマン：歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演。その他水野修孝作曲歌劇「天守物語」を指揮するなど、オーケストラ、オペラの両面で着実な成果を上げている指揮者として注目を浴びている。2016年4月よりニューフィルハーモニーオーケストラ千葉（現・千葉交響楽団）音楽監督就任。以降、同楽団の評価を高めている。2018年4月より東京藝術大学音楽学部指揮科教授。



©Shigeto Imura

米津真浩

Tadahiro YONEZU ピアノ

東京音楽大学（ピアノ演奏家コース）卒業。同大学院を首席で修了。

2013年・2014年度ローム・ミュージックファンデーション奨学生としてイタリア イモラ音楽院へ留学。

第76回日本音楽コンクールピアノ部門 第2位入賞。岩谷賞（聴衆賞）を受賞。

クラシック音楽の普及をモットーに演奏活動の他、フジテレビ『金曜日の聞きたい女たち』、テレビ朝日『芸術ハカセ』『ならデキ』等のテレビ番組やラジオといったメディアへの出演も積極的に行う。高嶋音楽事務所所属。

twitter:@YonezuTadahiro



千葉交響楽団

Chiba Symphony Orchestra

管弦楽



©Y.Kanase

千葉交響楽団は、千葉県唯一のプロオーケストラであり、前身であるニューフィルハーモニーオーケストラ千葉の 31 年間の活動を引き継ぎ、2016 年 10 月に千葉交響楽団と改称した。

千葉県内の音楽文化の創造・発展に寄与することを使命とし、定期演奏会とニューイヤークンサートを主催するほか、県民芸術劇場など県内で毎年およそ 20 回のコンサートに出演し、音楽の素晴らしさを県民に伝えている。もうひとつの主要な事業である千葉県及び各市町村教育委員会の共催による次代を担う子どもたちに向けての音楽鑑賞教室は、毎年 50 校ほどで行っているほか、幼稚園や特別支援学校での演奏や室内楽を加えると、年間の演奏会は 150 回ほどになる。

2016 年 4 月からは音楽監督として山下一史を迎え、その年 5 月の第 99 回定期演奏会「山下一史音楽監督就任記念コンサート」では、熱気あふれる演奏で観客を魅了、以降の演奏会でも多くの聴衆に感動を与えており、「おらがまちのオーケストラ」を掲げて、あらたな挑戦を始めている。

公式ホームページ <http://chibakyo.jp/>

